

公開シンポジウム「日本の社会福祉学・社会学の国際化に向けて」の開催について

主 催 日本学術会議社会学委員会

共 催 社会学系コンソーシアム

日 時 2010年1月23日(土) 13:00~16:00

場 所 日本学術会議講堂
(東京都港区六本木7-22-34 東京メトロ千代田線「乃木坂」駅5番出口徒歩1分)

開催趣旨

近年、研究者間の国際交流は大きく進展した。インターネットやその他コミュニケーション手段の発達、また環境問題などグローバルな課題の噴出のもと、研究者個人や研究団体さらには政府や国家機関が国境を越えた研究の連携を模索する時代となった。国際交流研究者集会、地域的規模の学会や学術会議、さらにはグローバルな規模での国際会議など今日ではいたるところで開催されている。

他方、学問の国際化にともない国際的競争も厳しさを増している。研究者の頭脳流出と国内での研究の空洞化、研究重要研究拠点形成にむけてのグローバルな競争など、研究母体は一様に淘汰の波にさらされている。こうした状況のもと、敏感なアンテナを張り国際動向に機敏にかつ適切に対応することが強く求められているといえよう。

とはいえ、これまで確固たる国際化戦略のもとに活動が進められているわけではなかった。多くの場合、関心のある個人・大学などが主体となり研究交流をすすめる形での国際化が行われてきた。

国際化のうねりに飲み込まれることなく、主体的そして戦略的にそれぞれの国際化をおこなうにはどのようにすればよいか。日本の学術団体が今後国際的学問研究の発達拠点となり、グローバルに活躍する研究者を多く輩出するためには、どのような施策を行えばよいか、焦眉の課題として取り上げたい。

次 第

- | | |
|-------------|--|
| 13:00~13:10 | 開会挨拶：庄司興吉（社会学系コンソーシアム・清泉女子大学教授） |
| 13:10~13:25 | 「日本社会学の国際化の理念・方法・課題 ―日本社会学会の国際化活動―」
矢澤修次郎（日本社会学会・成城大学教授） |
| 13:25~13:40 | 「社会学研究の国際化戦略と方法：能動的な国際化とは」
石井クンツ昌子（日本家族社会学会・お茶の水女子大学教授） |
| 13:40~13:55 | 「日本固有の学問体系との摩擦：海外学術誌への投稿経験から」
須田木綿子（福祉社会学会・東洋大学教授） |
| 13:55~14:10 | 「国際共同研究からみた国際化の現状と課題」
吉原直樹（日本都市社会学会・東北大学教授・日本学術会議連携会員） |
| 14:10~14:25 | 「国際化と社会学の言語 ―日仏学術交流の経験から―」
荻野昌弘（日仏社会学会・関西学院大学教授） |
| 14:25~14:40 | 「社会福祉学での国際化戦略 ―研究と実践のグローバリゼーションに向けて―」
白澤政和（日本社会福祉学会・大阪市立大学大学院教授・日本学術会議委員） |
| 14:40~14:55 | 休憩 |
| 14:55~15:55 | 全体討論：「日本の社会福祉学・社会学の国際化に向けて」 |

15:55～16:00 閉会挨拶：直井 優（日本学術会議社会学委員会委員長・大阪大学名誉教授）

参加申し込み等

事前のお申し込みは必要ありません。どなたでもご参加頂けます。参加費は無料です。

問い合わせ先

社会学系コンソーシアム事務局

電話：03-3238-3567

E-mail: socconsortium@activemail.jp